

第7日

令和7年6月18日（水）

午前11時05分再開

○議長（小島清人君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、8番熊本正博議員の質問を許可します。8番熊本正博議員。

（8番熊本正博君登壇）

○8番（熊本正博君） 皆さん、こんにちは。8番熊本正博でございます。本日傍聴にお見えになった皆様、それから、インターネットで傍聴されている皆様方、お忙しいところ誠にありがとうございます。

さて、私は、今日一般質問する中で、1番目に災害のこと。これは、平成29年7月の災害を忘れたらいかんよということと、それから2番目には戦争。戦争のことを風化させてはいけない。後世にもつないでいかないかんというような話を一般質問のほうからさせていただこうと思っております。

いつもならば、ここで、皆様方にいろいろな珍しい話とか、アサギマダラとか、かしわ飯の話やらしたいんですけど、今日は質問のほうが多うございますので、ただいまより質問席のほうからさせていただきたいと思っております。

それで戦争のことでございますが、戦争のことは、なかなか、これ、一般質問でするちゅうことは難しいと思います。何でかちゅうと、やっぱり人それぞれ戦争については考え方がございますので、言えば、それは違うよとか、いろんなことが皆さん方から出るとは思いますが、私自身の思いで語らせていただきますので、御了承願います。

執行部の皆様におきましては、明快な回答をよろしくお願いいたします。

それでは、質問席より質問をさせていただきます。

（8番熊本正博君降壇）

○議長（小島清人君） 8番熊本正博議員。

○8番（熊本正博君） それでは、通告書に従い、一般質問をさせていただきます。

最初に、平成29年7月の災害を忘れてはいけない。令和7年雨季の対応についてでございます。

平成29年7月災害の杷木地域や朝倉地域、それから高木地域での災害復旧工事は、ほぼほぼ完了をしていますが、山間部の土砂災害は、私にとっては心配であります。特に、令和5年の豪雨で再度災害を受けた箇所への復旧状況の進捗についてお伺いをいたします。

○議長（小島清人君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上政司君） 令和5年の豪雨では、平成29年7月九州北部豪雨災害で復旧工事が行われました箇所も再度被災いたしました。朝倉市は被災箇所の多くが原形復旧であったため、被災後、直ちに、福岡県管理河川につきましては、再度災害防止のために被災原因を明らかにした上で改良復旧してもらいたいと要望してまいりました。

また、本市が管理します河川の復旧につきましても、単なる原形復旧ではなく、強靱な護岸への復旧を国にお願いした結果、県管理河川それから市管理河川とも、再度災害防止施策が認められまして、工事が実施されてきたところでございます。

県管理河川の改良復旧実施箇所につきましては、出水期前の5月30日に市長が出水期前点検を実施いたしておりますが、河道内工事はほぼ完了していることを確認いたしております。また、市管理河川につきましては、被災26か所の全箇所の工事に既に着手をしております。現在17か所で完了、残り9か所において鋭意工事中でございます。1日も早い完了を目指して工事を進めていく所存でございます。

今期の梅雨がどの程度の降雨になるか想定はできませんけれども、緊張感を持って対応してまいります。

市から避難指示が出た際には、命を守るため、ちゅうちょなく避難をしていただくようお願いするところでございます。以上です。

○議長（小島清人君） 8番熊本議員。

○8番（熊本正博君） 今、部長が申された中で、9か所が残っちょるちゅうことでございますが、やっぱり、そういう残っちょるところが、また災害の原因を引き起こすということがございますので、再度市長から、そういう指示があつておるのならば、再度、また関係者の方々は、その9か所の点検を再度よろしくお願いをしたいと思っております。

それからまた災害の対応についても、いつ起こるか分かりませんので、十分準備をしていただきたいと思っております。

次に、朝倉市には3つのダムがあり、寺内ダム、小石原川ダムは、治水機能を持ち、沿川の洪水被害軽減に大きな役割を果たしています。しかし、これでよしとするものではなく、ダム河川の治水機能強化に対する取組をどのように進めているのか、お伺いをいたします。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） ダム河川の治水機能の強化に対します取組についてでございますが、佐田川の治水機能の強化策といたしまして、温暖化現象を前提としました寺内ダム再生事業と佐田川の整備事業というものが、水資源機構や国土交通省において現在進められているところでございます。

寺内ダム再生事業が完了すれば、洪水調節容量が700万立方メートルから880万立方メートルに増量されるという予定でございますけれども、既に本年4月には、洪水調節容量が777万立方メートルに増量されております。事業途中ではございますけれども、洪水による被害軽減に寄与するものと期待をしているところでございます。

また、小石原川につきましても、同様に治水機能強化策の実施が必要というふうに認識をしているところでございます。関係機関であります国土交通省や水資源機構、それから福岡県に対しまして、強く求め続けているところでございます。以上でございます。

○議長（小島清人君） 8番熊本議員。

○8番（熊本正博君） 佐田川の治水機能強化につきましては、引き続き事業推進をよろしくお願ひしたいと思います。

内水による市街地の浸水被害、下流部に広がる農耕地の浸水被害は大きな課題であります。

内水被害に対しては、市として明快な方針を持つての対策が必要と考えますが、見解をお伺ひいたします。

○議長（小島清人君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上政司君） 近年、梅雨期の降雨、特に日雨量が極端に多くなっていることは、朝倉市においても例外ではございません。そのため、内水によります集落部の浸水被害、農耕地の湛水被害が頻発している状況でございます。

本市としましては、短時間集中的な時間雨量の極端化につきましては、浸水被害ゼロの対応は困難であるとの前提の下、集落部におきましては、10年に1回程度発生する降雨規模等での床上浸水被害の防止、また、農耕地の湛水被害につきましては、湛水時間の短縮化を基本とした被害の軽減に取り組んでいるところでございます。

○議長（小島清人君） 8番熊本議員。

○8番（熊本正博君） 近年、雨季時期の日雨量が多くなっております。集落部の浸水被害、農耕地の湛水被害については、最小限に被害を食い止めていただきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。

次に、対策が遅れている小石原川の治水対策についてでございます。

令和5年の豪雨では、小石原川が氾濫寸前でありました。小石原川ダムは緊急放流直前で回避をしましたから、あれは際どい状況であったと思います。災害は起こらないのが一番、ですが、地球温暖化が進んでおり、災害はいつ起きてもおかしくないと考えられます。

小石原川には河川整備の前提となる旧堰の撤去という難しい課題がありますが、一刻も早い解決を求めたいです。この点について、どのような方針を持つて対応しているのかお伺ひをいたします。

○議長（小島清人君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上政司君） 市外を流れます小石原川の治水対策の強化につきましては、喫緊の課題であるというふうに考えております。

朝倉市では福岡県が平成30年7月に策定しております河川整備計画を早急に進めてもらいたいと考えておりますが、旧堰撤去等の前提条件が整わないため河川整備が進められず、沿川地域住民には洪水被害への不安が続いているのが現状であるというふうに思っております。

温暖化現象が進行している状況を鑑みれば、いつときの猶予も許されない状況でございます。河川管理者である福岡県朝倉県土整備事務所、旧堰撤去当事者であります福岡県農

政部、朝倉農林事務所及び水資源機構には、河川整備を進めるための前提条件の早期解決を再三強く求めているところでございます。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） ダム河川の観点から、私のほうからも答弁をさせていただきたいと思います。

両筑平野用水事業の管理が開始をされてから今年で50年目となりますけれども、旧堰撤去の課題は今も解決をしていないという状況でございます。

福岡県と水資源機構には、両筑土地改良区と水利用者に寄り添いながら、難航している課題に真正面から向き合っていて、分析と解析をお願いし、解決策の方向性を出してもらいたいと申し入れたところでございます。

国土交通省におきましては、温暖化現象を前提としました筑後川水系河川整備計画の変更の検討が現在進められているところでございます。

本市としましては、特に小石原川の治水機能の強化としまして、河川それからダム群、そういったもの一体となった治水機能の強化を求め続けていく所存でございます。以上でございます。

○議長（小島清人君） 8番熊本議員。

○8番（熊本正博君） 今、両部長が申されましたが、私は小石原川の対策が遅れていると一般質問で何度も何度も言ってきたと思います。河川管理者である福岡県土整備事務所、旧堰撤去当事者であります福岡県の農政部、それに水機構に河川整備を進めるため早期解決を強く求めていくといつも言われていましたが、全然進歩がないと思います。

福岡県が平成30年7月に策定した河川整備が、あれからもう7年。また、令和5年7月豪雨のときは小石原川の堤防すれすれまで水が流れておりました。私もこれは現場で確認しましたが、ああ怖いなど、これ以上雨が降ると怖いなどというようなことで思っておりましたが、氾濫寸前であったと思います。そんな事実がありながらも、回答はいつも同じ。

お尋ねです。もしですよ、河川氾濫があつて、住宅が冠水してしまったら、誰が責任を取るのですか。教えてください。

○議長（小島清人君） 都市建設部長。

○都市建設部長（井上政司君） 小石原川の氾濫はあつてはなりませんが、市のこれまでの答弁でも再三説明させていただいておりますとおり、治水機能が低いことは朝倉市も危惧をしております。河川管理者には一刻も早い河川整備を求めているところでございます。

同時に、旧堰撤去当事者であります福岡県朝倉農林事務所や水資源機構には、河川整備ができる条件を早く整えてもらいたいと再三求めているところでございます。

河川整備が追いついていない段階での氾濫被害が出た場合の責任の所在というものが質問されておりますけれども、現時点でのこの場での議論は困難であるというふうに考えております。

豪雨によります被害は、基本的には自然災害であると考えております。旧堰が残っていたから、それが原因で氾濫が起きたという議論も難しいというふうに思っておりますし、河川管理者ではない朝倉市がお答えできるところではないというふうに考えるところでございます。

朝倉市行政としましては、河川整備担当者と旧堰撤去担当者、さらに水利使用関係者に粘り強くお願いする以外にはないというふうに考えておりますが、朝倉市自らも旧堰撤去が遅々として進まない原因を解明するため奮闘しているところでございます。以上でございます。

○議長（小島清人君） 8番熊本議員。

○8番（熊本正博君） 今、部長が言われました。はっきりは言えないと思いますが、やっぱり、このことは十分考えていかないかんちゅうことで、私は今日は、これは活を入れさせていただいたことでございます。市が直接これに関わっとけば回答も出ようとは思いますが、市が直接やるものじゃないので、私もここいらで引き下がりますが、また、この小石原川の河川の危ないということについては、また一般質問をさせていただこうと思っているところでございます。よろしくをお願いします。

最後に、林市長、令和7年出水期に当たり災害復旧や治水についての総括的な答弁をお願いいたしたいと思っております。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（林 裕二君） 個々の課題、質問につきましては、それぞれの部長が答弁をいたしましたので、総括的に私のほうからお答えをさせていただきたいというふうに思います。

5月の連休が終わりますと、出水期と梅雨だということで、毎年毎年緊張をするという中で、梅雨に入りました。とにかく昨年のように穏やかな梅雨であってほしい、出水期であってほしいというのが一番でございます。

工事が進みましたので、令和5年の再度災害防止の工事につきましては、先月30日に、私のほか、副市長、部長が福岡県の朝倉県土整備事務所と一緒に、災害復旧事業中の河川を主に今年も視察をさせていただきました。令和5年から2年まだたっていないんですね、実を言いますと。この非常に短期間の中で、極めて精力的に工事を行ってきていただいているというふうに、私は思っております。

当該年度、令和5年の夏は災害がありましたので、工事をする前の——議員が一番詳しいと思いますけれども、その段階があって、それを踏まえて、再度災害防止、本市の河川も部長が答えたとおりでございます。

河川内の工事は、ほぼ完了をしておりますして、残された期間は令和7年度中でありますので、これに向けまして出水期であっても、できる部分は上から工事を続けると。そして、それ以外の工事については期限内に完成させるという勢いで取り組んでいただきました。安全性が極めて高くなっているということを確認したところであります。

それから、しっかり議員から指摘をされ続けているというダム河川につきましては、寺内ダムの佐田川につきましては、おかげさまで平成29年災害直後から要望しておりました寺内ダムの再生、それから佐田川の工事ということにつきましては、順調に今進めていただいております、答弁したとおり、その治水容量も大きくなっているということであります。

一番心配な小石原川、我々も同じ気持ちで対応しております。おととしの話も言われましたけれども、極めて緊張したということでございます。何とか早く旧堰の撤去ということができませんと、整備ができないという現実がございますので、今、両筑土地改良区が積年にわたって課題としてやってきました。これは農業をする側の水の手当の問題という極めて大きな課題を背負った問題でございます。こういったことと、小石原川の治水をよくするという事は非常に難しい関係ではございます。

我々も今までいろんなところに当然要請もしてまいりましたし、そして現在も、答弁しましたように、やっぱり当事者に当たる土地改良区から直接ですね、関係の福岡県の機関等に、水資源機構等に、直接こうだというようなことも、実は今やっております、この両筑平野用水の両筑土地改良区が抱えている課題と、持っている堰と、それと事業を進める旧堰の撤去といったことにつきましては、朝倉市といたしましては、両筑土地改良区の理解が進まない限り、非常にこの事業は難しいということで考えておりますので、そういうことでございますので、さらに要請をしっかりとやっていくということ、具体的にいつから始めるかといった等も、今やっておりますので、全力を挙げて取り組んでまいり、市民の皆さんの安全に1日も早くつながりますように努力をいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

○議長（小島清人君） 8番熊本議員。

○8番（熊本正博君） 市長のお気持ち、よく分かりました。これからもよろしくお願いをいたしたいと思っております。

今、昨日ニュースでもあっていましたが、三連水車も昨日から回り始めたということですが、令和7年も穏やかな雨季を望んでおります。しかし、万全なる災害対応は忘れずに、市民の皆さんは、自らの命は自ら守るを基本に行動をお願いしたいと、このように考えております。

佐田川については、さっき市長も申されましたが、事業が始まっていますが、小石原川の治水対策は早急に解決をし実施に入っていただきたいと、このように考えて、この質問は終わらせていただきたいと思っております。

次の質問に入ります。

2番目の、戦後80年の節目について、戦争の記憶をどう継承するかについてでございます。

本年は、昭和元年から100年、戦後80年、朝倉市となって20年、私が生まれて70年とい

う節目の年であります。

まずは戦没者の方へ、20世紀最大の惨禍であり、幾多の悲しみをもたらした大戦において、祖国を思い、家族を案じつつ戦場に去り、あるいは、戦後、遠い異郷の地で無念のうちに亡くなられた諸種の方々に思いをはせ、ここに心から御冥福をお祈り申し上げます。

第2次世界大戦の日本兵の死者数は230万人、市民の死者数は80万人、合わせて310万人の方々が亡くなられております。

私の父も戦争に行きました。海軍でしたが、無事に帰還し、終戦後に私が生まれました。父ちゃんと呼び、何事もなく私は育ってまいりましたが、中には、父ちゃんと呼び、父ちゃんに抱かれることすらかなわなかった方もおられるかと思えます。

当時、突然一家の大黒柱を亡くし、幼子たちを抱えた80年前の若い母親の苦労がどのようなものだったのか、想像を絶する思いがいたします。しかし、その幼子であった遺族の皆様も高齢化し、恐らく80歳を超えられた方ばかりとなり、悲惨な戦争を経験された方が少なくなっております。国民の1割が戦争を経験してあるぐらいでしょうか。恐らく戦後90年を迎えるときには、遺族の方々はさらに少なくなると考えられます。

私たちは戦没者の方々のことを後世に長く語り伝え、併せて、未来への責務として、世界恒久平和実現のため最善を尽くしていかなければならないと心から思っております。

現在、NHK連続ドラマ小説「あんぱん」が放映をされております。恐らく執行部の方は仕事がありますので、8時から始まりますから、見てあらないかもしれませんが、戦争当時のことが今ちょっとありよるわけですよ。

そこで、「産めよ殖やせよ、国のため」。政府が推進し、赤紙——召集令状1枚で、お国のため立派に戦ってまいりますと戦地へ行かれ、子どもたちは、戦うための戦争の教育を受けているといった、昭和16年の12月より太平洋戦争が始まり、昭和20年8月の終戦までの当時の国民が戦争に勝つことを第一に目的とした生活が描かれております。

今も、ドラマのほうは中国満州での戦争の出来事が今放映されているところでございますが、私が思うに、昔の戦争映画を見られたことはあるでしょうか。生々しい、何かもう、こりゃあちゅうて、たたいたりとか、そりゃあもう、映画見よったら、それが本当だったんだろうと思えます。

それはなぜかちゅうたら、やっぱり戦争に行った方がそのことを制作されてあったから、そういう残酷ちゅうたらいかんけど、厳しいような、そんな生々しい映画になっておりましたが、この「あんぱん」になりますと、やっぱり同じ戦争の時代のことが描かれておりますけど、何かこうやっぱり優しいちゅうか、あんまり厳しいような、生々しいちゅうようなものが放映はされていません。これは恐らく、今度は戦争を知らない方が制作をされたから、こういう優しい放映がされているのかと、私ながらにそう思って、ちょっと今話をさせていただきました。

しかし、どちらにしても、80年という前には戦争の時代であったということについては

間違いないと思います。

話をごろっと変わりますが、甘木公園内には、南に忠霊塔があり、北に慰霊塔があります。御存じだと思いますが、忠霊塔と慰霊塔の違いは何か、また、このような慰霊塔は市内に幾つあるのか、お尋ねをいたします。

○議長（小島清人君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（吉武尚美君） まず、忠霊塔と慰霊塔の違いでございますが、忠霊塔も慰霊塔も戦没者の顕彰、慰霊、追悼のために建立されたものでございます。一般的には、忠霊塔は納骨堂を備えていることが前提とされております。甘木公園内の忠霊塔は昭和13年に建立されたものであり、建立当時は第二次世界大戦以前の戦争の戦没者が祭られていました。

また、慰霊塔は昭和36年に甘木地区遺族会有志により建立されたもので、旧甘木町出身の戦没者278柱が祭られております。

また、市が把握している忠霊塔や慰霊塔等の慰霊碑は、旧甘木市に13基、旧朝倉町に3基、旧杷木町に4基ございます。以上です。

○議長（小島清人君） 8番熊本議員。

○8番（熊本正博君） 慰霊塔は、甘木地区の遺族会の方々が祭られているということですね。

それでは、この忠霊塔内の霊安室には何人の戦没者が祭られているのでしょうか。中には何が安置されているのでしょうか。教えてください。

○議長（小島清人君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（吉武尚美君） 甘木公園内の忠霊塔は、昭和13年の建立当時に祭られた戦没者の——具体的な人数は不明でございますが、第二次世界大戦後、昭和22年に朝倉郡戦没者遺族連合会が結成され、当時の朝倉郡内の22町村の出身の戦没者2,712柱が合祀されております。

なお、霊安室には、遺骨ではなく、お名前が記された小さな骨つぼが安置されております。

○議長（小島清人君） 8番熊本議員。

○8番（熊本正博君） 分かりました。

次に、甘木公園内の忠霊塔には碑文書がないが、戦後80年が経過し、戦争の記憶が薄れかけているのではと、戦争で多くの方が犠牲となったことを将来へ残すべきだと、遺族会の方々から要望がございました。市は碑文書を設置すべきではないのか、お伺いをいたします。

○議長（小島清人君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（吉武尚美君） 昨年5月に開催されました朝倉市遺族連合会総会におきまして、甘木公園内の忠霊塔には説明板がないので、説明板を設置すべきではないかとい

う御意見が出されました。会の中で、戦後80年の節目に合わせて忠霊塔の説明板設置に向けた話合いや取組が行われてきております。

市は、朝倉市遺族連合会の事務局を担っておりますので、説明板設置に向けた事務作業を会の方と一緒にやってまいりました。

現在は設置に係る許諾申請等を終えまして、設置に向けた作業中でございます。6月26日に除幕式を予定しているところです。

説明板の設置費用につきましては、会の会費に合わせて、朝倉市遺族連合会に市が交付している補助金の一部が充てられることとなっております。以上です。

○議長（小島清人君） 8番熊本議員。

○8番（熊本正博君） 6月26日に除幕式が予定されたのですね。遺族会の方は碑文の設置を熱望されてあったので、それは大変よかったなと思います。

なぜ碑文を遺族会の方が設置しようと思ったのか、詳しく言いますと、それは、戦後80年の節目もありますが、世界ではロシアによるウクライナへの軍事侵攻やイスラエル等の中東地域の紛争が長期化、深刻化し、多数の市民が犠牲となり、人々の平穏な生活が脅かされ続けております。

このような痛ましい事態が現在もなお起きていることを大変遺憾に思うと遺族会の会長は語ります。

これからの新しい世代を生きる全ての人々に平和な暮らしが続くように、悲惨な戦争を繰り返さないよう、世界平和を祈念し、碑文書を設置したいと言われました。

戦争は無駄だったと言われる方がおられますが、そうやってしまえば、お国のために戦って戦死された方は浮かばれません。私たちが戦争の記憶を継承することで、戦没者の御霊も安らかになれると考えております。

今の部長の話をお聞きしますと、市は朝倉市遺族会連合会事務局を担っておると言われました。碑文書設置に向けて一緒に会議を行ってきた。設置の費用についても、遺族会に市が負担している市の補助の一部が充てられたと回答がありましたが、今後、遺族会会員の年齢も上がります。徐々に会員が減って、遺族会の存続が危ぶまれるような状況にある中、行政として遺族会との関わりを絶やさずに、なお平和を願い継承して行ってほしいと切に願うものであります。これは、回答は要りません。

昭和22年の戦後2年たって、朝倉郡戦没者慰霊遺族連合会を結成、郡下22町村戦没者が合祀されていたが、甘木市主催により忠霊塔で慰霊祭が催されるようになったと聞いております。現在は9月にピーポートで戦没者追悼式が毎年行われています。

そこで今回、戦後80年節目を迎えるに当たり、戦没者追悼式がどのように挙行されたのか教えてください。

○議長（小島清人君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（吉武尚美君） 朝倉市主催の追悼式は、どなたでも参加は可能でございます。

ますが、若い世代の方の参加がほとんどないのが現状でございます。そこで、今年度、戦後80年の節目の取組として、中学生に参加していただくことを予定しております。こうした取組を通して、悲惨な戦争の記憶を風化させることなく、次の世代にしっかりと引き継ぎ、平和の大切さを伝えていきたいと考えているところでございます。

○議長（小島清人君） 8番熊本議員。

○8番（熊本正博君） 今、中学生に参加をしていただくと言いましたが、何人の方に参加をしていただくのでしょうか。

○議長（小島清人君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（吉武尚美君） 市内各中学校の生徒の方の代表に参加してもらい、20名程度を予定しております。

○議長（小島清人君） 8番熊本議員。

○8番（熊本正博君） 今、20人と言われましたが、それはちょっと付け足しみたいな話じゃないでしょうか。実施するなら、せつかく実施するなら、若い人たちにもっと参加をしていただいて、戦没者慰霊祭とは何とやら、風化をさせてはなりません。将来の朝倉市の担い手ですので、大勢参加をすべきですが、いかがでしょうか。

○議長（小島清人君） 保健福祉部長。

○保健福祉部長（吉武尚美君） 追悼式の実施が土曜日であることや、実施の時期的な問題、学校内外の行事等もでございます。20名ほどであれば可能だろうということで話を進めてきたところです。

現段階でまだ詳細が決定したわけではありませんので、いただいた御意見につきましては、お伝えしていきたいと思っております。

いずれにしても、次の世代への継承については大切なことだと考えておりますので、広報紙での若者の参加の呼びかけを行うとともに、遺族会にもお孫さんの参加の協力等をお願いしたいと思っております。以上でございます。

○議長（小島清人君） 8番熊本議員。

○8番（熊本正博君） 部長、ぜひ、検討をお願いしたいと思います。朝倉市の未来がかかっておりますからですね。

次に、先日6月4日、5日に、天皇、皇后両陛下と愛子様が戦後80年の節目として沖縄に慰霊の訪問をされております。昨年から秋月藩成立400年という節目にいろんな催物がありました、大変よいことだと思っております。

では、戦後80年の節目に向かうに当たり、どのような事業を行うのかお尋ねをするところでしたが、昨日、渡辺議員の質問の内容とこれが重なりましたので、企画振興部の答弁は省かせていただきます。

次にお願ひでございますが、これは。例えば、これもちょっと言われたんですが、忠霊塔。昔は子どもの頃はそこで遊びよった覚えがあると、遊びよったちゅうか、遠足

やらに行つて、そこで宝探しをしたりとか、鬼ごっこをしたりとか、忠霊塔はちょっと広くなつていますが、学校の行事んごとして忠霊塔に行つていた覚えがあります。それ友達にも聞くと、おお、行きよつたもん、行きよつたもん、なつていふような話でありましたのですが、やっぱり忠霊塔で、今はもうひっそりとしておりますが、子どもたちが遠足に行つて、帰るときには手を合わせて帰るとかですね。しかし、手を合わせるの、何で合わせるか、それはもうどうでつちやええちや言つちやいかんけど、子どもたちは分からんかもしれんけど、手を合わせるちゆうことは、まず大事なことだと思つております。

戦没者の方も、俺たちの死は無駄じゃなかつたと、こんなに子どもたちが元気に、そして幸せに暮らしていると言つていただけるのではないかと思つております。ぜひ、遠足とか、イベントの開催の場所として検討していただければ幸いです。

これにつきましても、昨日、教育部長のほうがフィールドワーク等で検討するといふようなことを言われておりましたので、これにつきましても、回答は要りません。

戦争被害者は、戦地でなく、昭和19年8月22日、学童疎開船対馬丸で沖縄から九州に向かう途中、アメリカの潜水艦の魚雷攻撃により沈没しました。学童784人、兵員合わせて1,484人が死亡をしております。対馬丸の悲劇でした。

これは朝倉市の頓田でも、昭和20年3月27日11時頃、空襲警報が鳴り、集団下校途中に森に逃げ込んだ立石国民学校の児童31人が、大刀洗飛行場を標的としていたB-29爆撃機の誤爆により尊い命が奪われております。頓田の森の悲劇です。

爆撃の現場にいて、けがを負いながら生き延びた当時8歳だった体験者も、現在は88歳になられております。何度か当時の出来事を講演されたと聞いております。貴重な体験でございます。私もお聞きしたいと思つていふところなんです。

そこで頓田の森について、現在はどのような状況になつていますか、教えてください。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 頓田の森についてでございますけれども、戦後しばらくは雑木林でございましたけれども、昭和56年から昭和57年にかけて、現在の朝倉青年会議所によつて、頓田の森平和花園として整備をされまして、平和を語り継ぐ場所になつていふところがございます。

花園内には頓田の森での出来事でありまして、非核・恒久平和都市宣言文、それから朝倉市民からのメッセージ、平和活動の年表、こういったものが書かれた掲示板や千羽鶴などが飾られております小屋というものが設置されております。

頓田の森にありました当時のシイの木なんですけれども、残念ながら平成5年に枯れてしまひまして、戦後50年に当たります平成7年に記念碑として、ピーポート甘木の中央図書館入り口に展示を行つております。今も図書館前で平和のシンボルとして思いを伝え続けていふところがございます。

また、このシイの木を題材にしました絵本「シイの木はよみがえつた」といふ本をその

翌年の平成8年に作成をしまして、当時の小学生と中学生全員に配付を行いまして、頓田の森の悲劇について広く周知をしたところでございます。

また、近年の令和3年には朝倉青年会議所によりまして、花園に駐車場も整備をされておりますし、また定期的に清掃活動などが継続して行われているところでございます。

また、地元の立石小学校においては、5年生の平和学習として毎年、頓田の森の悲劇について学んで、生徒たちは平和花園を訪れているというところでございます。以上でございます。

○議長（小島清人君） 8番熊本議員。

○8番（熊本正博君） これは私の思いですから聞いていただきたいと思います。

平成29年7月5日は九州北部豪雨の日、忘れてはならない35人が亡くなられ、行方不明者2名の確認ができていません。甚大な被害を受けた朝倉市の悲劇で、朝倉市民は大勢の方がこの事実を経験しています。

しかし、頓田の森の悲劇はどうでしょうか。一部の方が慰霊祭を行っていますが、朝倉市民はどのくらいの方がこのことを知ってあるのでしょうか。戦争という事実を忘れないためにも、今年はまだ終わりましたが、来年のこの当時の3月27日の11時頃にサイレンを鳴らして、朝倉市民が黙祷をするなどしてほしいなと思っております。

これは何十年か前にこういうこと、頓田の森でサイレンを鳴らして黙祷をしましようというようなことが議会でも何か出ていたそうですが、やはり私はこれはやるべきではないかなと、サイレンを鳴らして黙祷して。災害のときの7月の5日にも議会等で黙祷をやっているように、やるべきではないかなと、そういうふう思っております。

もう一つです。昭和20年の3月27日を、朝倉市で起きた頓田の森の悲劇の祈念日——祈念日というのは、祈る、念じるほうの祈念日と位置づけして将来長く受け継がれてほしいなあと、そのように思っております。

最後に、戦後80年に迎えるに当たり、戦争の記憶をどう継承していくのか、また先ほど話した頓田の森の悲劇についても含み、林市長のお考えをお聞かせいただきたいと思えます。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（林 裕二君） 戦後80年を迎え、戦争を知る方が少なくなっていること、戦争の記憶を風化させてはならないこと、戦争は決して二度と起こしてはならないこと、そして今の平和がいかに尊いものであるかを後世に伝えていくことは極めて重要であると考えております。

本市も35年前の朝倉市平和事業実行委員会発足時から、共に戦争の記憶を継承する活動を続けてまいりました。今後も戦争の記憶を継承し、平和の尊さを次世代に伝えていくために市民や各団体、各世代が協力し、市全体での取組を息長く続けていくことが必要であると考えております。

朝倉市では、昭和20年3月27日に31名の児童が犠牲になった頓田の森の悲劇が起きております。遺族の方々により、毎年3月27日に一木神社において慰霊祭が行われております。これまで様々な経過があったことは承知しておりますが、戦後80年の節目を迎え、慰霊祭には私も出席させていただきたいと考えております。

○議長（小島清人君） 8番熊本議員。

○8番（熊本正博君） 最後の市長の言葉、出席をさせていただくと。私も思っております、何で市が関わっていないのだろうか。そういうことも思っておりますし、やはり頓田の森を守るのは一部の団体だけじゃなくて、また皆さんが全部、団体を超えて、党も超えて、皆さんが一緒になってこの頓田の森の悲劇を語り続けていただきたい。そのためにはやはり、市長もこの祈念祭には行っていただくと。そういう発言もありましたので、大変心強いと思っております。本当にありがとうございます。よろしくお願いします。

それでは、小規模校への通学についてでございます。これについてはもう時間があと7分とかになりますので、申し訳ありません。こちらのほうがいろいろ質問を出してお答えをしていただくということになっておりましたが、途中でふつと切れるのは私もあまりよくない。もうここで答えとか途中で終わってしまっはいけないので、この質問につきましては、また次の回にさせていただくということで。

ただし、この小規模校への通学について、ちょっと内容が分からないから皆さん方が困るかもしれませんが、教育長の御意見だけお聞かせいただいで終わらせていただこうかなと、このように考えております。思いをよろしくお願いいたします。

○議長（小島清人君） 教育長。

○教育長（早野展生君） すみません、時間がないということで私、最後に答弁させていただこうと思いましたが、そういった内容に近い状態をちょっと述べさせていただきます。

小規模校振興プロジェクトというのは昨年度から計画させていただいて、今年度から3年間の計画でさせていただいているところでございます。今年度、令和7年の3月議会においても答弁をいたしましたけれども、令和6年度の取組を通しまして小規模校に魅力を感じ、通学したいというお子さんが一定数おられるというのが分かりました。そして、通学支援がないために小規模校への就学を断念した方もおられました。現在、通学支援が大きな課題であるというふうに認識をしておりますして検討を進めているところでございます。

それと併せまして、当該の秋月小中学校、そして蜷城小学校自体がその校区の歴史や特色を整理いたしまして、その魅力を広く朝倉市民等に伝えることができるように、学校ホームページの作成などをしたらどうかというような提案もさせていただいているところでございます。

また次回、答弁する機会がございましたら答弁をさせていただきたいと思っております。どう

ぞよろしくお願ひ申し上げます。

○議長（小島清人君） 8番熊本議員。

○8番（熊本正博君） 教育長、難しい質問になりました。ありがとうございました、お答えいただきまして。

まだ時間がありますので、お話をさせていただきたいことが一つあります。私、質問しようと思っていたんですが、その中で話そうと思っていたんですが、秋月中学校が令和7年の5月のスタディピアという民間の会社の統計で掲載をされていますが、全国7,196校の中の秋月中学校がランキング100位に、何と全国20位で「朝倉市立秋月中学校 福岡県朝倉市」と掲載がされています。これは携帯で調べていただければこの結果が出ておりますが、福岡県では1位でございます。

続いて2位が、全国で24位の太宰府市立学業院中学校であります。これは聞かれたことがあると思いますが、それよりも秋月中学校のほうが上だというような、本当に朝倉市にとってはこんな素晴らしい中学校があると、学力がです。挙げられているというようなことで、これは本当に素晴らしいことでありまして、朝倉市の誇りでもあると思います。こういうことも言いたかったんですよ、本当は。秋月中学校にやらにでも行っていただきたい。

こういう環境もいいし、素晴らしい、そして水がおいしい、いろいろあると思います。しかし、何で学力がいいかちゅうことはそれが原因かどうかは分かりませんので、私も分かりませんが。ただ、今、秋月中学校は人数が少ないのでマンツーマンじゃないですが、そういう勉強の仕方があっているのかもしれませんが、それにしてもやっぱり20位に入るちゅうようなことは、これは大変うれしい話だなと、そういうふうに思っておりました。

今回は大変皆様方にいろいろお調べいただいて申し訳ございませんが、また次回にさせていたいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

これを持ちまして、私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（小島清人君） 8番熊本正博議員の質問は終わりました。

暫時休憩いたします。午後1時に再開いたします。

午後零時3分休憩